

国内都市派遣研修 報告書【概要】

1 目的

次期学習指導要領の改訂に向け、特に小学校英語教育の先進的な取組を視察し、千代田区における円滑かつ効果的な導入の参考とする。特に教育課程に短時間学習（モジュール）を位置付けている大阪府松原市の取組の成果と課題を確認する。

2 視察箇所

松原市教育委員会・市立松原北小学校・市立天美南小学校

3 期間

平成28年11月7日（月）計1日間

4 研修参加者

千代田区教育委員会 統括指導主事 高橋 美香
指導主事 畝尾 宏明



【松原市役所 外観】

5 報告

（1）松原市教育委員会

市内に15校の小学校と7校の中学校があり、近年少子化も進みつつある。

大阪府教育委員会の委嘱を受け、平成23年度から3年間「使える英語プロジェクト」、平成26・27年度は「英語教育推進事業」を展開。また大阪府教育委員会は平成26年度より短時間授業（以下「モジュール授業」という。）用教材「Dream」を松香フォニックスと共同開発したが、市内2校（天美南小学校・天美北小学校）がモデル校として実践研究を重ねた。

小学校15校には「小学校英語指導協力員」を導入。市が6名の協力員を専属雇用し、各校を週1回ずつ巡回する。協力員は、市が主催する研修会や連絡会に参加するとともに、授業プランを作り、中休みなどに学年の担当教員と次週の打ち合わせなどを行う。ALTは1名で、全小学校の6年生を対象に月1回程度、指導を行う。

平成28年度からは「まつばら DREAM プラン」として、従来の取組に加えて、市内全小学校の1, 2年生に「Dream」を活用してモジュール授業を実施。それに向けて、市教委は平成27年12月までに、学校長等への説明を行う。当初、教員からの抵抗感が強く、校長から市教委への要望も多かった。「何のために・どのように取り組むのか」目標と手段をきちんと説明する機会が必要であり、年度内に3回、年度明けに2回の説明会・研修会を開催した。また、市教委はクラスルーム・イングリッシュのカードなどを作成し、全校に配布するなどして授業支援を行う。

DVD 教材「Dream」の完成度が高かったため、実際の導入後は、思った以上に子ども達が楽しんで学習に参加し、事前に心配されていた声はほとんどきかれなくなった。

今後、段階的にモジュール授業を展開していき、平成32年度には全小学校全学年で展開予定。また、予定されている学習指導要領の改訂に伴い、短時間授業の位置づけは未確定であり、今後、大阪府教育委員会とも連携しつつ進めていく。

(2) 松原市立松原北小学校

24学級全児童数500余名で、市内で一番の大規模校。「まつばら DREAM プラン」により、今年度から低学年でもモジュール授業を開始。

2校時(45分間の1単位時間授業)、学級担任と小学校英語指導協力員(フィジー出身)による5年生の外国語活動を参観した。授業開始時にイングリッシュリーダー(英語日直)数人が前に出て、英語で号令、英語で約30秒程度の自己紹介、歌2曲、そして「Hi! Friends」Lesson7「What's this?」の学習に入る。授業は、協力員が中心となって展開され、「Hi! Friends」のDVDを活用して約30分間クイズ形式で進められた。フォニックスを意識して、globe(地球儀) grab(グローブ)等を混せて、指差しゲーム等を行った。学級担任は時折児童の様子を見て日本語訳を伝え、児童の指名をしていた。子ども達は明るく挙手や発言をしていた。

(3) 松原市立天美南小学校

19学級全校児童数400余名、商店街が近くにあり、下町文化あふれる元気な子どもが多い学校である。平成26・27年度「英語教育推進事業」研究協力校として、大阪府立公立小学校英語学習6か年プログラム「Dream」開発に向けた研究に協力し、学力向上・学校経営改善を行っている。

研究先進校として、モジュール授業の時間について校内で協議と研究を重ね、平成28年度より、火・木・金の昼食後午後1時40分からの時間帯で校内統一して全学年で取り組んでいる。実施のための15分は、給食時間や清掃時間を短縮し、最終下校時刻は5分延長したのみにとどめた。

6年生のモジュール授業では、担任が一人で指導を行う。授業は、「STORY」「SONG」「PHONICS」「READING」の順に展開し3～4分程度でテンポよく次の活動へ展開した。これは、「Dream」が同じ内容を7セット行う設定となっているからであり、回を重ねるうちに理解が促進され、発話が促されるとのことである。6年生は、DVDに合わせて小声ながらもしっかりと発音しており、最後のリーディングでは、友達に自分の読みを評価してもらう活動も展開されていた。



【天美南小6年生・読みを相互評価】

1年生のモジュール授業も担任1名で授業が行われた。担任は音楽に合わせて黒板にテンポよくカードなどを貼っていくが、実際にチョークで文字を書くことはほとんどない。1年生は常に、体全体を使って動作しつつ、声量も大きく元気いっぱいであった。例えば、フォニックスの学習では、appleの時は大きく頭の上で輪を作り“apple!”と発話したり、baseballの時はバットを構えてスイングしてみたりと1年生の発達に応じた授業展開であった。学級担任も一緒に大きく体を動かし、子どもたちの意欲を高める指導が大変有効であった。

6 まとめ

本区においても、学習指導要領の改訂に対応する方策として、モジュール授業の導入も選択肢の一つである。特に教科化が想定される小学5・6年生に対して、今回視察した「DREAM」等の教材を活用してモジュール授業を導入した場合のメリットとデメリットを明確にし、備えていく必要がある。